



「ドラマ化・映画化・アニメ化」された本

小説などを原作として映像化された作品はたくさんあります。そこで、ドラマ化・映画化・アニメ化された本をご紹介します。観てから読むもよし、読んでから観るもよし！



・リラの花咲くけものみち

藤岡 陽子

光文社

F-フ

岸本聡里(さとり)は、動物が好きだったことから祖母の元を離れ、北海道の北農大獣医学部へ進学します。治す、救うだけではない命を扱う仕事に、戸惑い葛藤しながらも、動物達や周りの人々との関わりを通して学び成長していきます。獣医の世界を細部にわたり丁寧に描いています。2025年ドラマ化。続編が2026年夏放送予定。

・謎解きはディナーのあとで

東川 篤哉

小学館

F-ヒ

麗子は新米刑事で大企業グループのお嬢様。影山はその執事兼運転手。麗子が事件の捜査に行き詰まると、影山が「お嬢様の目は節穴でございませうか？」などと毒舌を吐きながら、鮮やかな推理で謎を解き明かしていきます。二人の掛け合いが楽しい、連作短編ミステリー。2011年ドラマ化。2025年アニメ化。

・この夏の星を見る

辻村 深月

KADOKAWA

F-ツ

コロナ禍の2020年、登校や部活が制限され、自粛ムードで人間関係もぎくしゃくしていた中、今できることを模索する中高生たちが、スターキャッチコンテストの開催のために、オンラインで繋がります。茨城、東京、長崎五島で始まったリモートで同時に星を見る活動は、次第に広がっていき…。さわやかな青春群像劇です。2025年映画化。

・透明な夜に駆ける君と、目に見えない恋をした。志馬 ながし SBクリエイティブ F-シ

人とは関わらないようにしてきた空野かけるは、整いすぎて引くほどの美人、冬月小春に出会います。彼女は目が見えませんでした。何事もあきらめず前向きな小春に、かけるの心も次第に変わっていきます。そんな小春の夢は打上花火をすることでした。ライトノベルGA文庫大賞受賞。2025年ドラマ化。

・ひゃくはち

早見 和真

集英社

F-ハ

青野雅人は高校時代、甲子園常連校の京浜高校の野球部に所属していました。それから8年が過ぎ、今つきあっている佐知子から高校生のとき出会っていた、と告げられます。しかし、その記憶がない雅人は、当時の記憶を思い出そうとしますが…。2008年映画化。

・栄光のバックホーム	中井 由梨子	幻冬舎	783.7-ナ
・レインツリーの国	有川 浩	新潮社	F-ア
・宙(そら)わたる教室	伊与原 新	文藝春秋	F-イ
・博士の愛した数式	小川 洋子	新潮社	F-オ
・君の臓腑(すいぞう)をたべたい	住野 よる	双葉社	F-ス
・夜明けのすべて	瀬尾 まいこ	文藝春秋	F-セ
・響け！ユーフォニアム(シリーズあり)	武田 綾乃	宝島社	F-タ
・線は僕を描く	砥上 裕将	講談社	F-ト
・薬屋のひとりごと(シリーズあり)	日向 夏	主婦の友社	F-ヒ
・すべての恋が終わるとしても	冬野 夜空	スターツ出版	F-フ
・おいしくて泣くとき	森沢 明夫	角川春樹事務所	F-モ